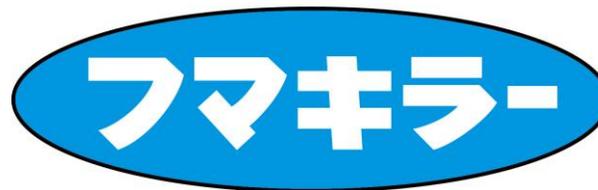


フマキラー株式会社

2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

日用品質



2024年12月5日

I. 決算概要

II. 今期予想と今後の展開

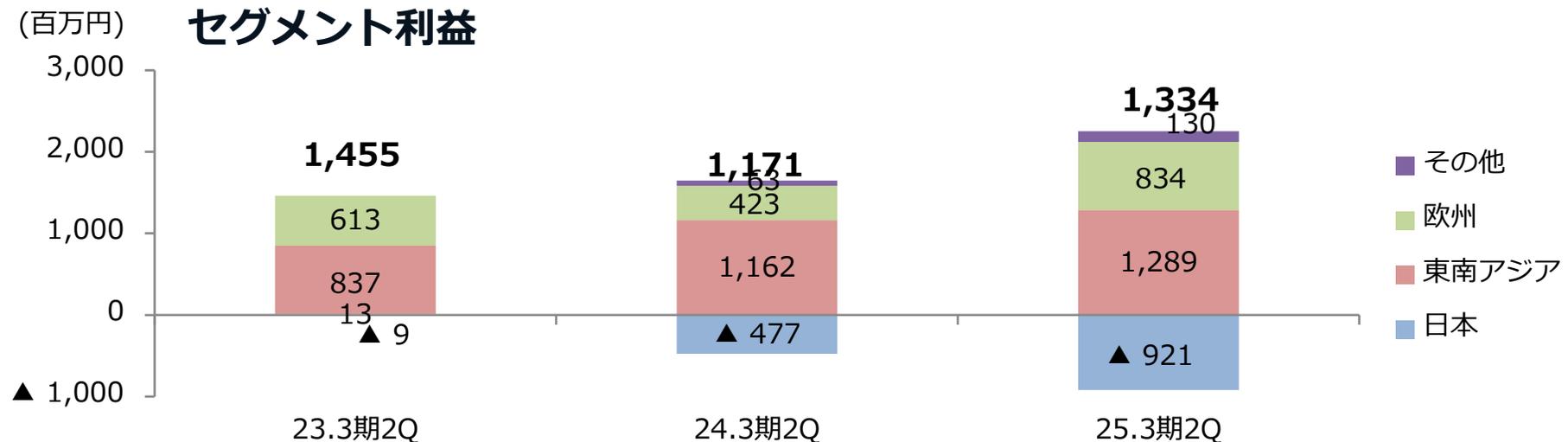
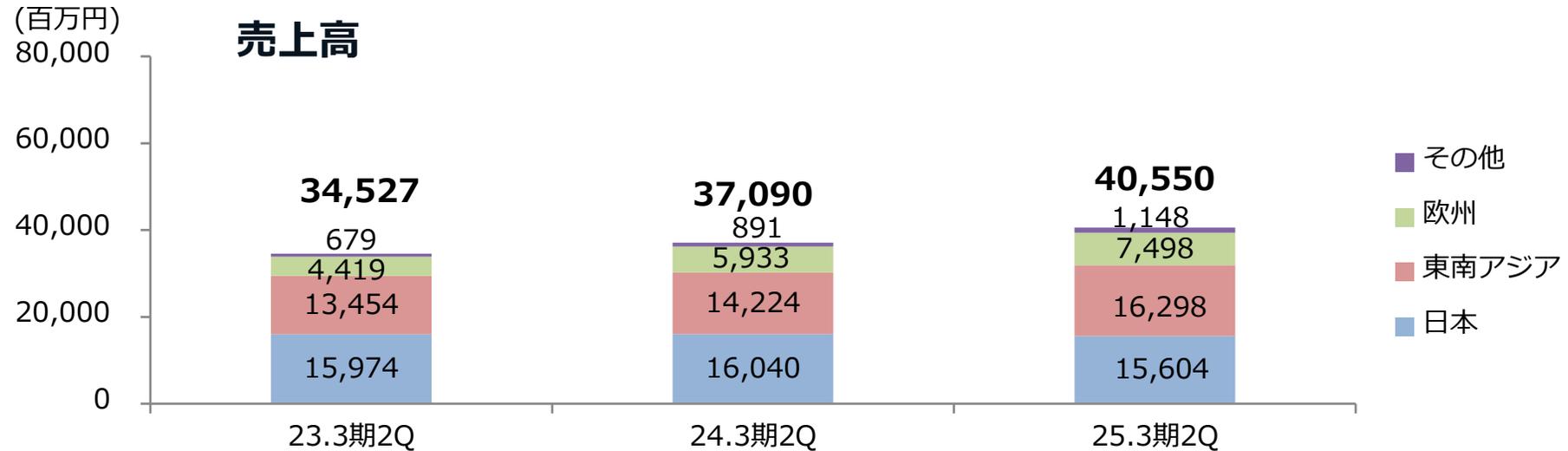
III. 補足資料

I. 決算概要 (2025年3月期)

- ◆ 国内は越境ECが減少も、海外は現地通貨、円貨ともに伸長し増収
- ◆ 利益面は国内の原価率高止まりと海外の販促費増により減益

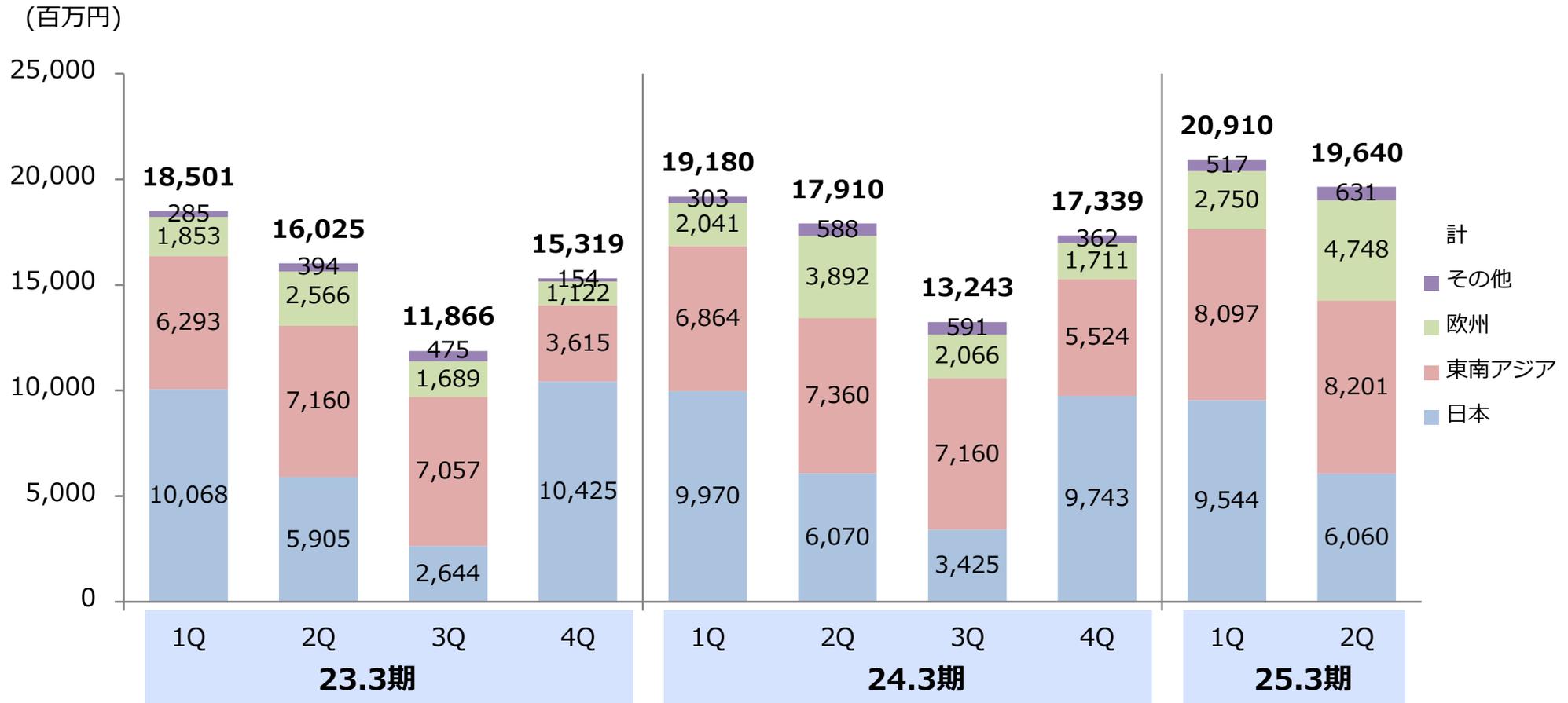
	24.3期2Q 実績		25.3期2Q 期初計画		25.3期2Q 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	計画比 (%)	前期比 (%)
売上高	37,090	100.0	39,700	100.0	40,550	100.0	102.1	109.3
売上総利益	10,570	28.5	12,200	30.7	11,798	29.1	96.7	111.6
営業利益	1,428	3.9	1,900	4.8	1,624	4.0	85.5	113.8
経常利益	1,764	4.8	1,850	4.7	1,565	3.9	84.6	88.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	897	2.4	930	2.3	742	1.8	79.8	82.7
1株当たり利益	54.45円		56.43円		45.04円			

- ◆ 日本は仕入れコストアップが続き赤字が続く
- ◆ 東南アジアは、現地通貨ベースで堅調に推移、円安の影響も加わり増収増益

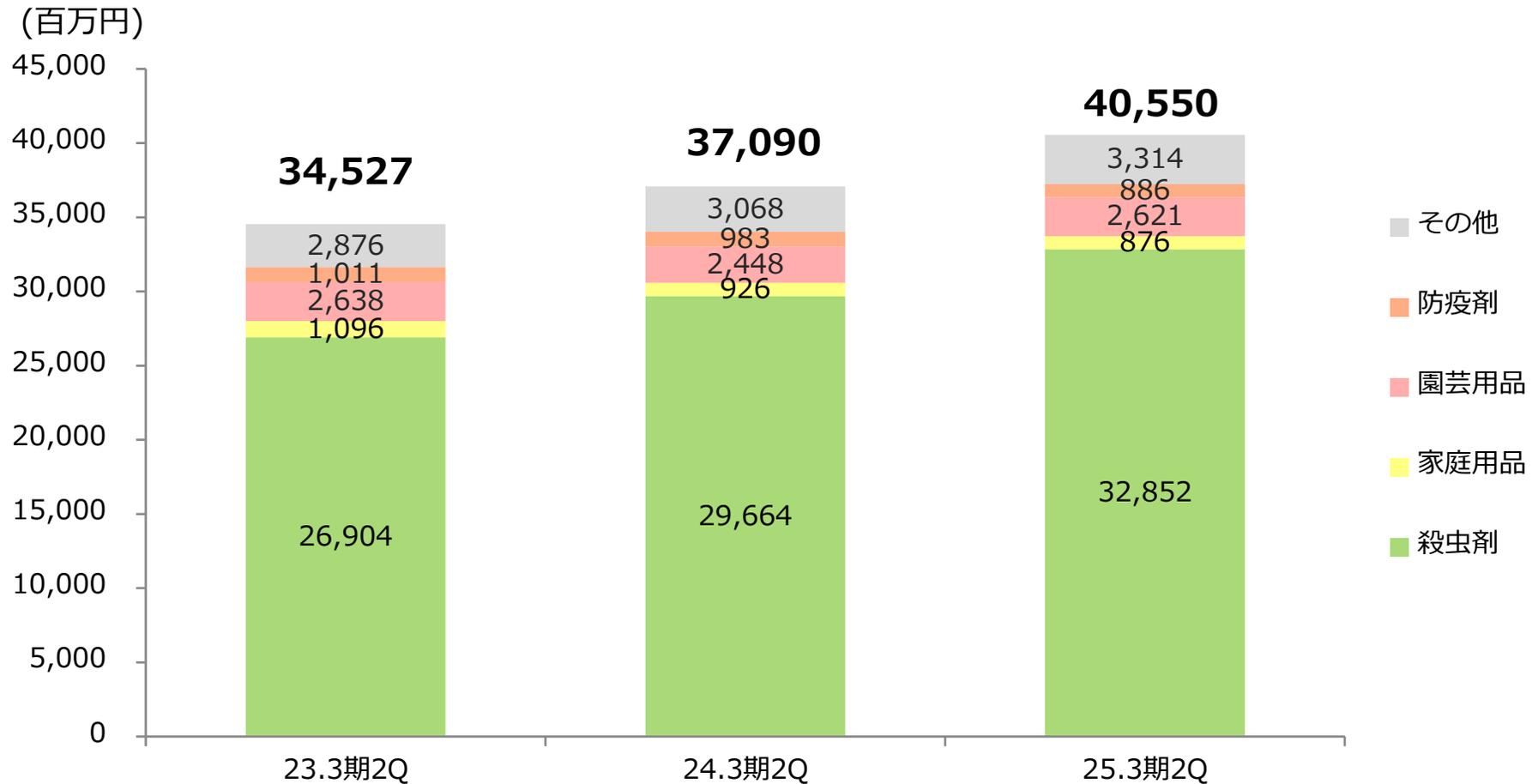


決算概要 – 四半期別セグメント別売上

- ◆ 東南アジア、欧州いずれも1Q・2Qどちらも伸長
- ◆ 日本は1Q落ち込むが2Qは昨年並みで推移

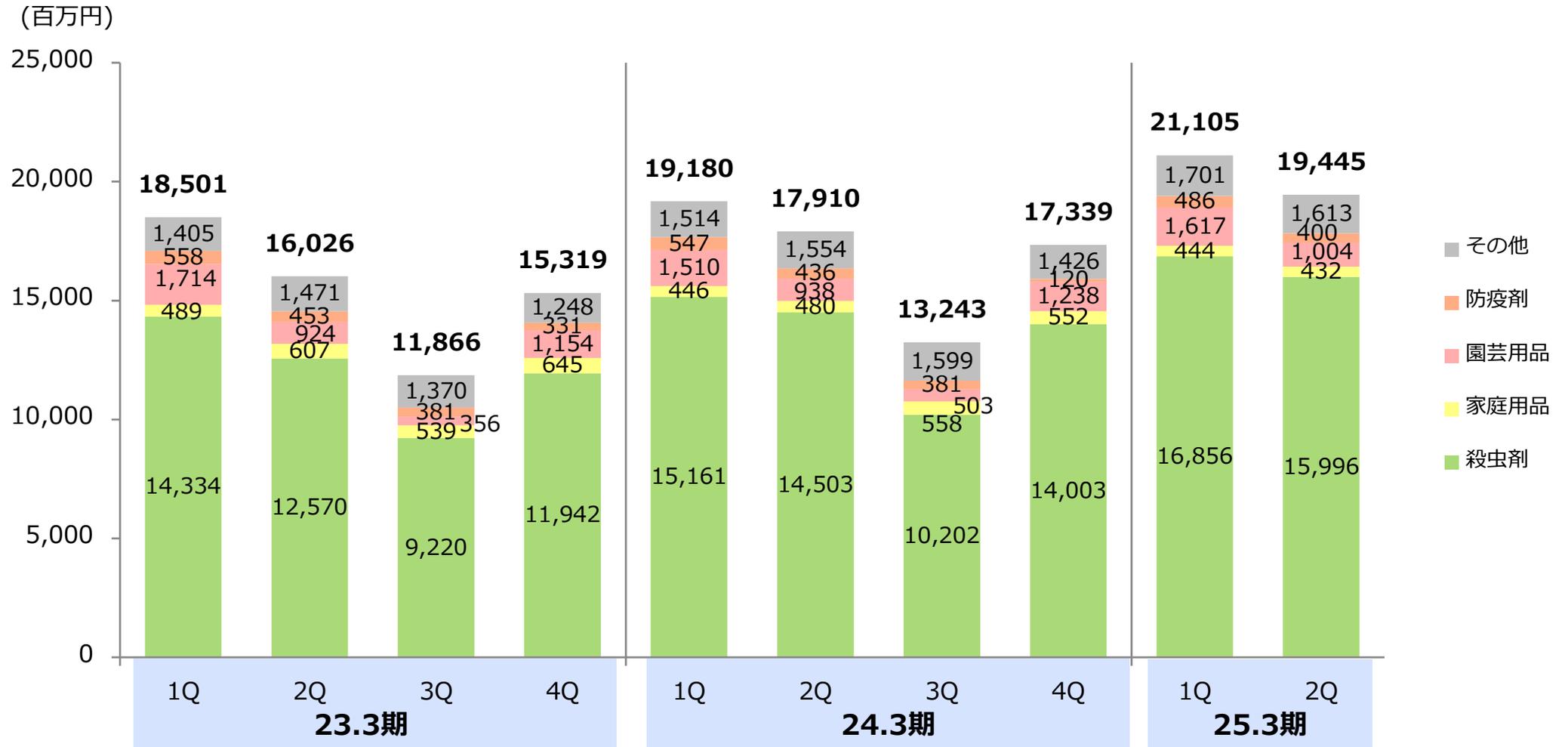


◆ 殺虫剤、園芸用品の売上が伸長、家庭用品は減収



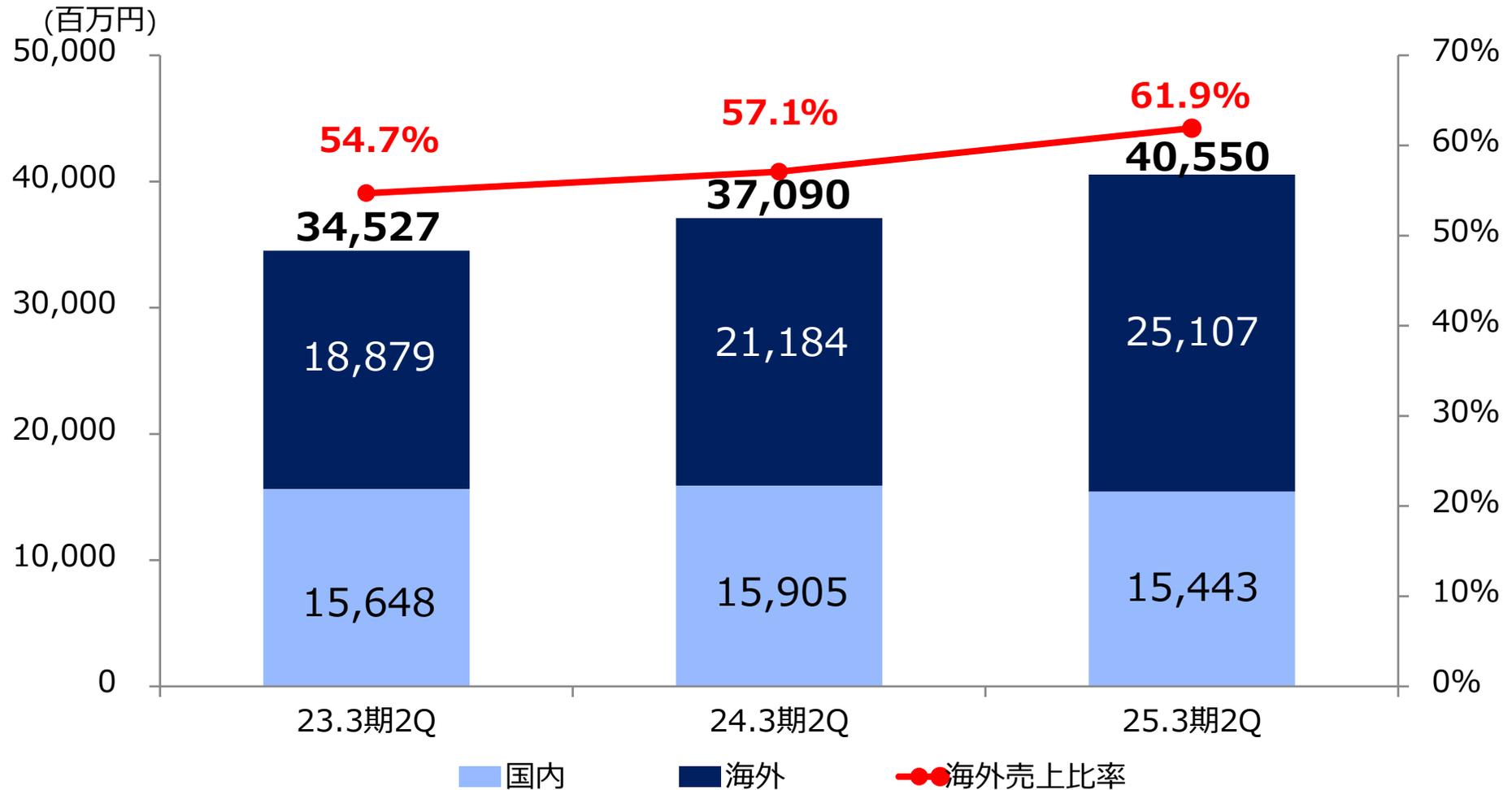
決算概要 – 四半期別ジャンル別売上

◆ 1Q、2Qともに殺虫剤、園芸用品が伸長



決算概要 – 国内/海外売上高

- ◆ 国内は、園芸用品、その他が伸長
- ◆ 海外は、現地通貨ベースで堅調、円安の影響も加わり大きく増加



- ◆ 為替による業績への影響は、売上高で+1,383百万円、営業利益で▲26百万円

為替変動による売上・利益増減額

	売上高	営業利益	備考（営業利益）
フマキラー	+44	▲135	海外売上+3、海外仕入▲138
海外子会社	+1,339	+109	インドネシア+6、アジア+48、ミャンマー▲9、 インド▲1、メキシコ+4、イタリア+60
合計	+1,383	▲26	

期末レート

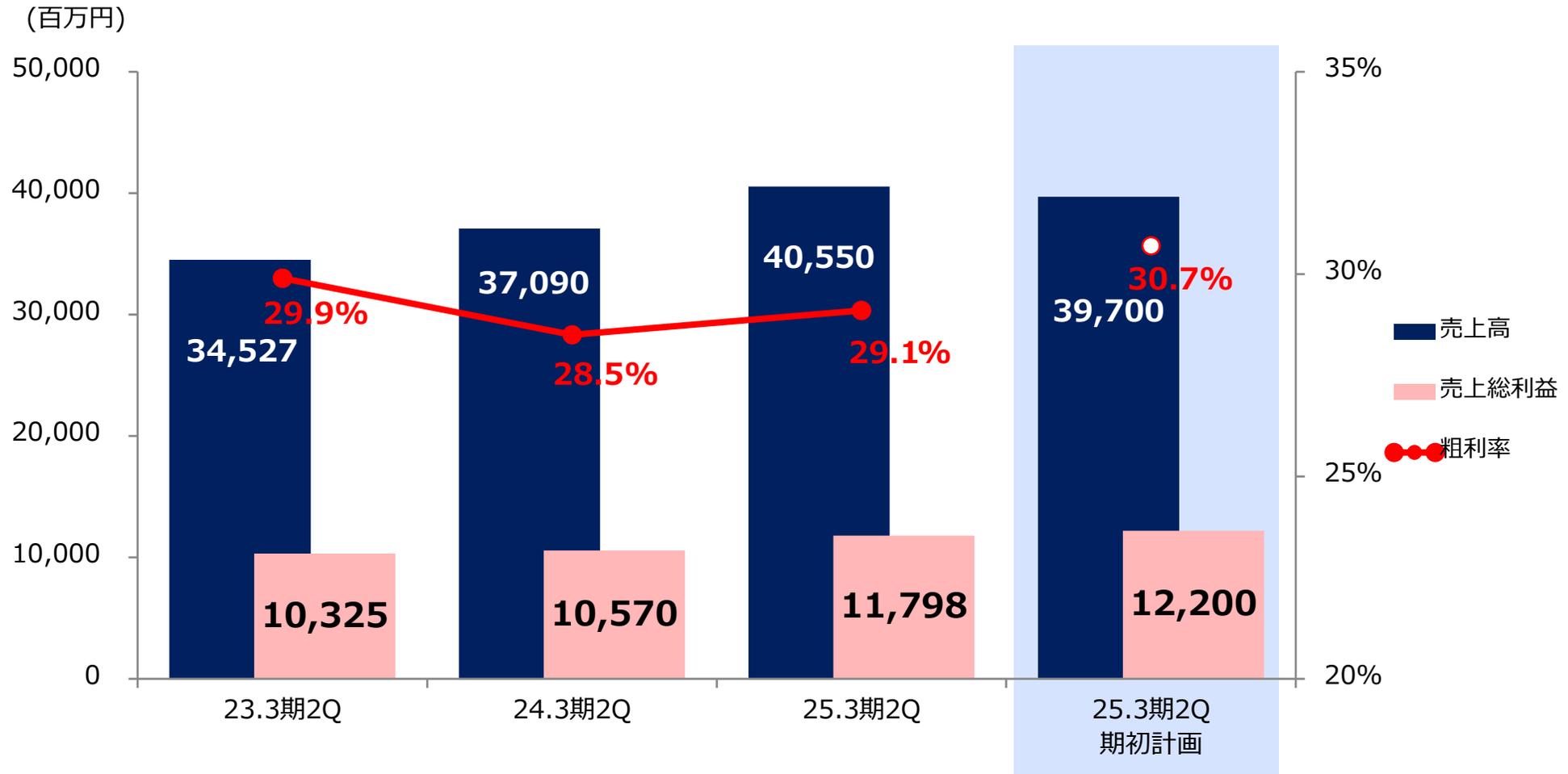
期末	23年6月	24年6月	25年12月 計画
円/100ルピア	0.970	0.980	0.941
円/リングgit	30.96	34.17	31.93
円/ルピー	1.80	1.71	1.82
円/ペソ	8.47	8.72	8.94

期中平均レート

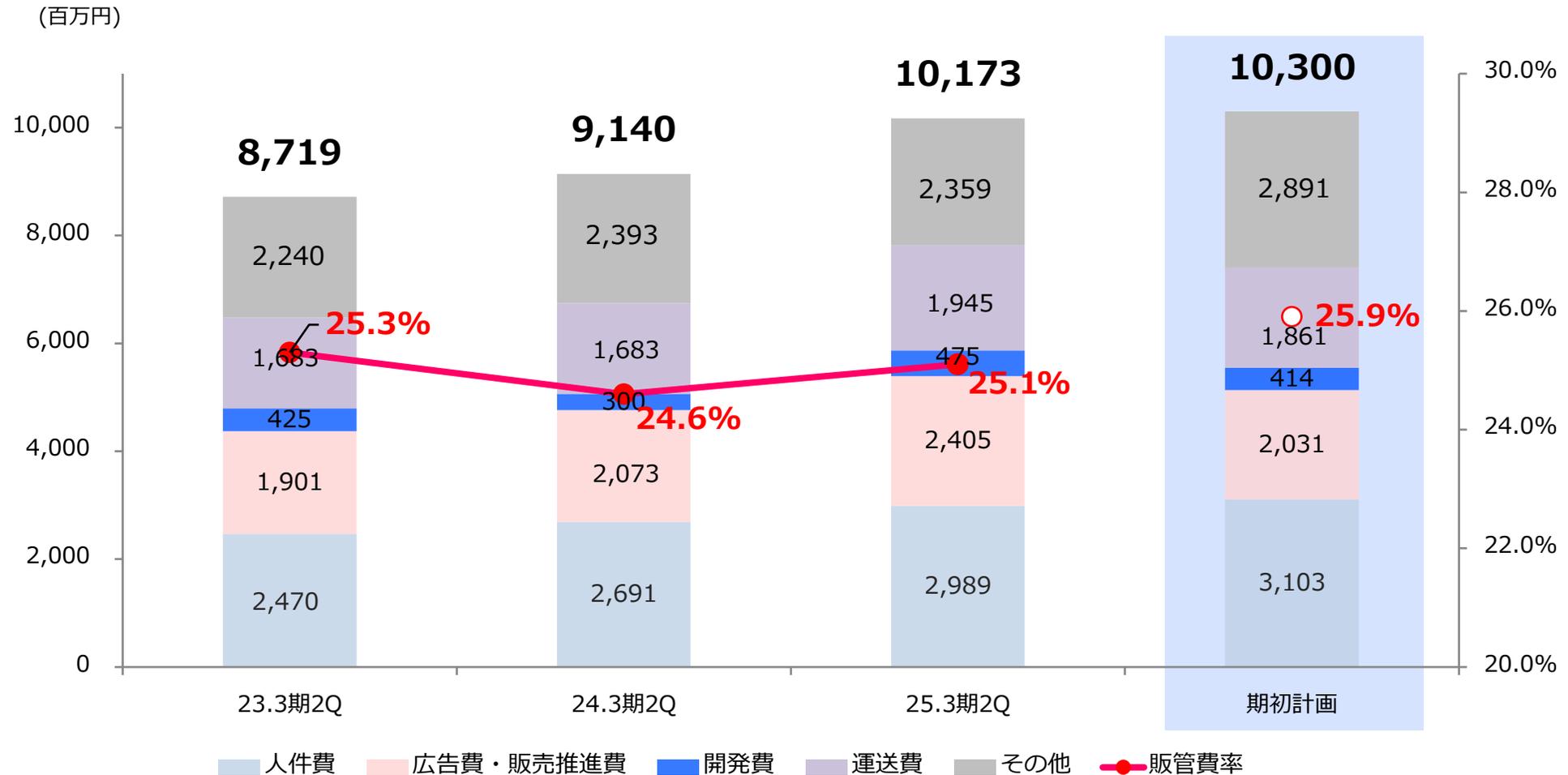
期中平均	23年4-9月	24年4-9月	25.3期 計画 (24.4-25.3)
円/ドル	144.99	153.03	152.21
円/ユーロ	157.56	167.48	163.06

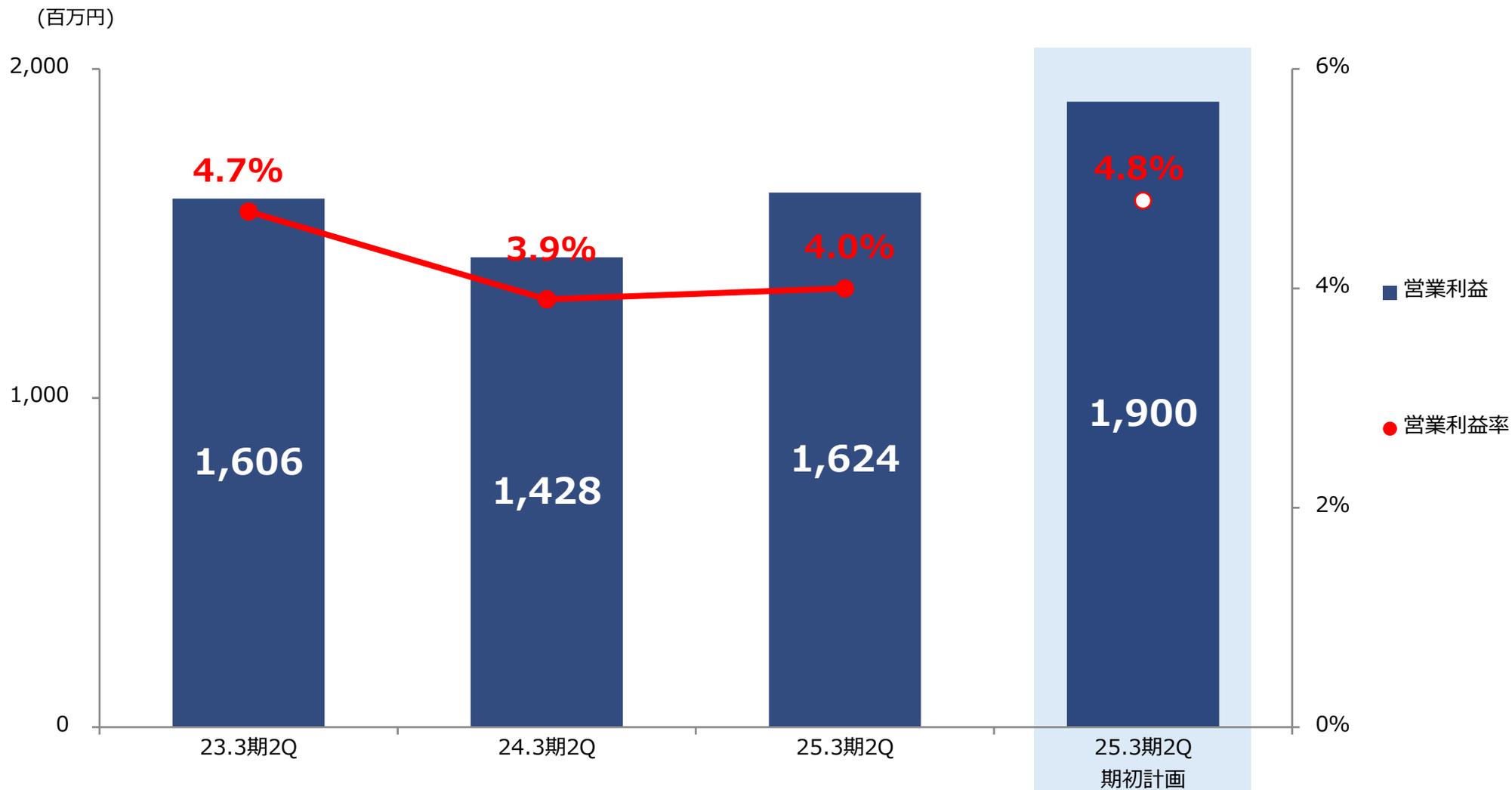
決算概要 – 売上総利益（粗利率）

◆ 売上総利益率は前期比0.6pt上昇



◆ 海外子会社の経費が円安の影響を受け増加



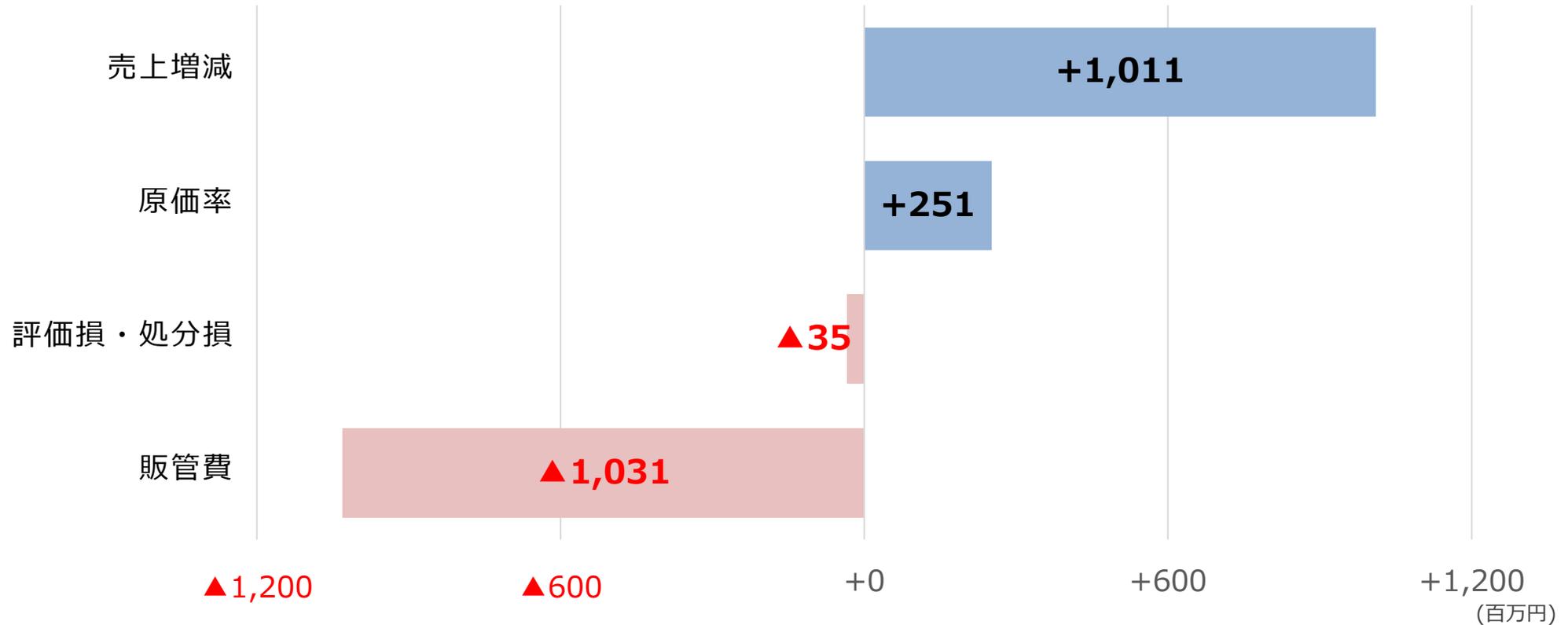


決算概要 - 営業利益増減要因

連結 営業利益増減要因

前年同期比 **+196**

1,428 ⇒ **1,624**

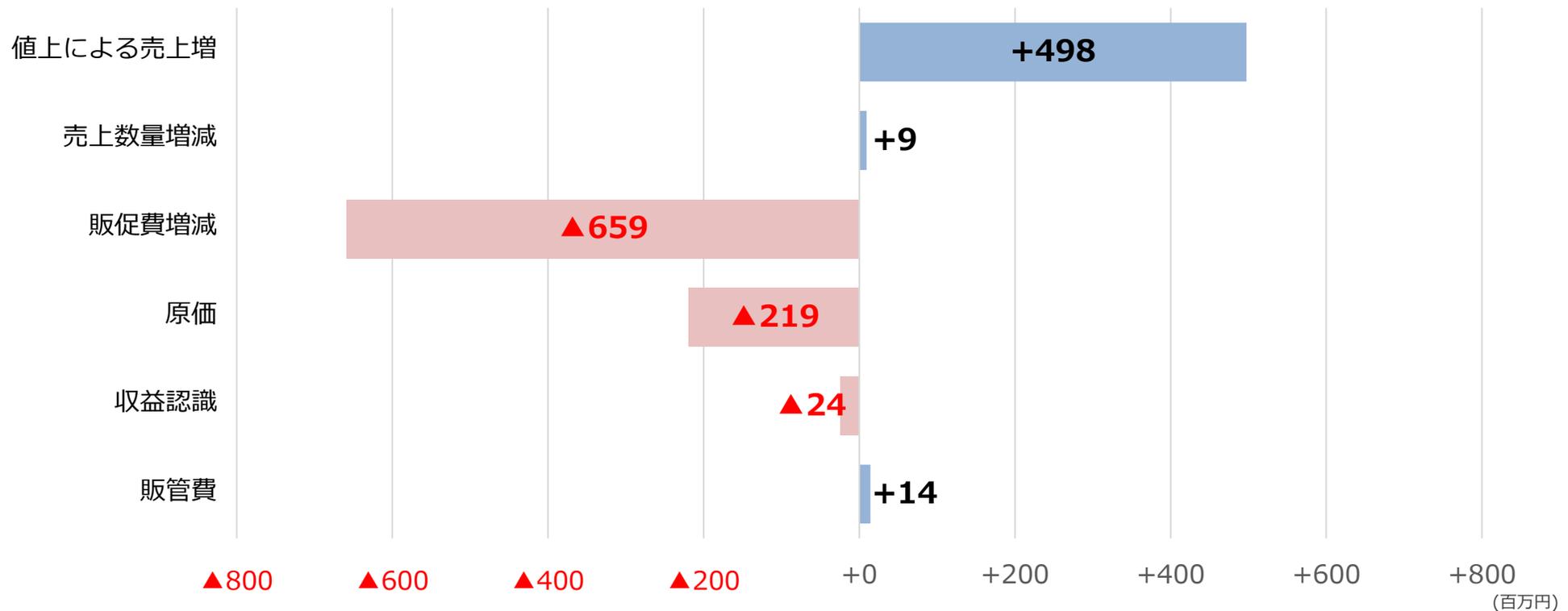


決算概要 - 日本セグメント 利益

7 6期第2四半期 セグメント利益増減 ▲477 ⇒ ▲921 (前期比▲444)

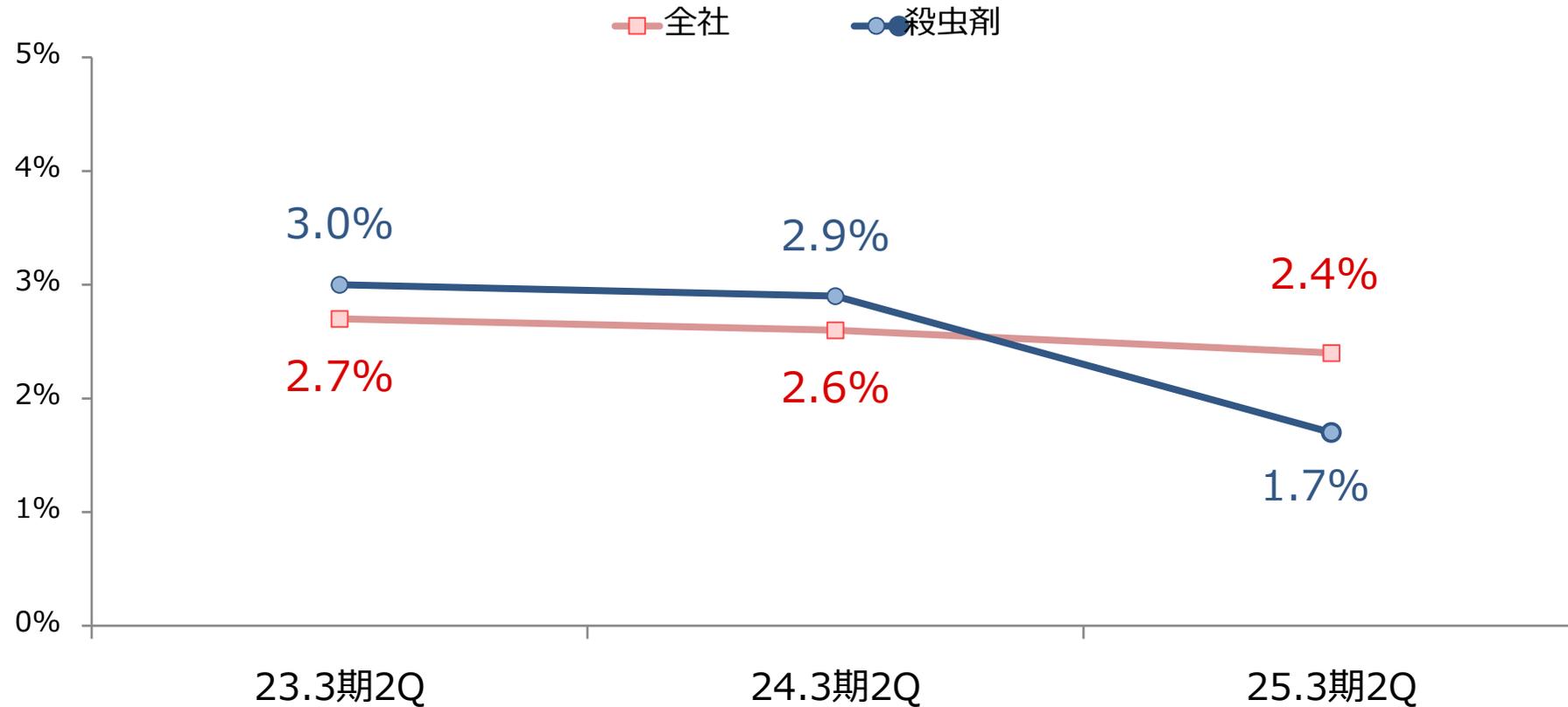
- ◆ 値上による売上増加は約5億
- ◆ 越境EC売上の減少分を国内市場向け売上の伸長でカバー
- ◆ 一方で国内市場の競争激化に伴う販促費の上昇を見込み、販促費引当金が増加し利益を圧縮

日本セグメント 主な利益増減要因



- ◆ 長引く残暑で販売期間が延長し、殺虫剤の返品が減少。返品率は昨年以上に減少し1.2pt低下

返品率（フマキラー単体）

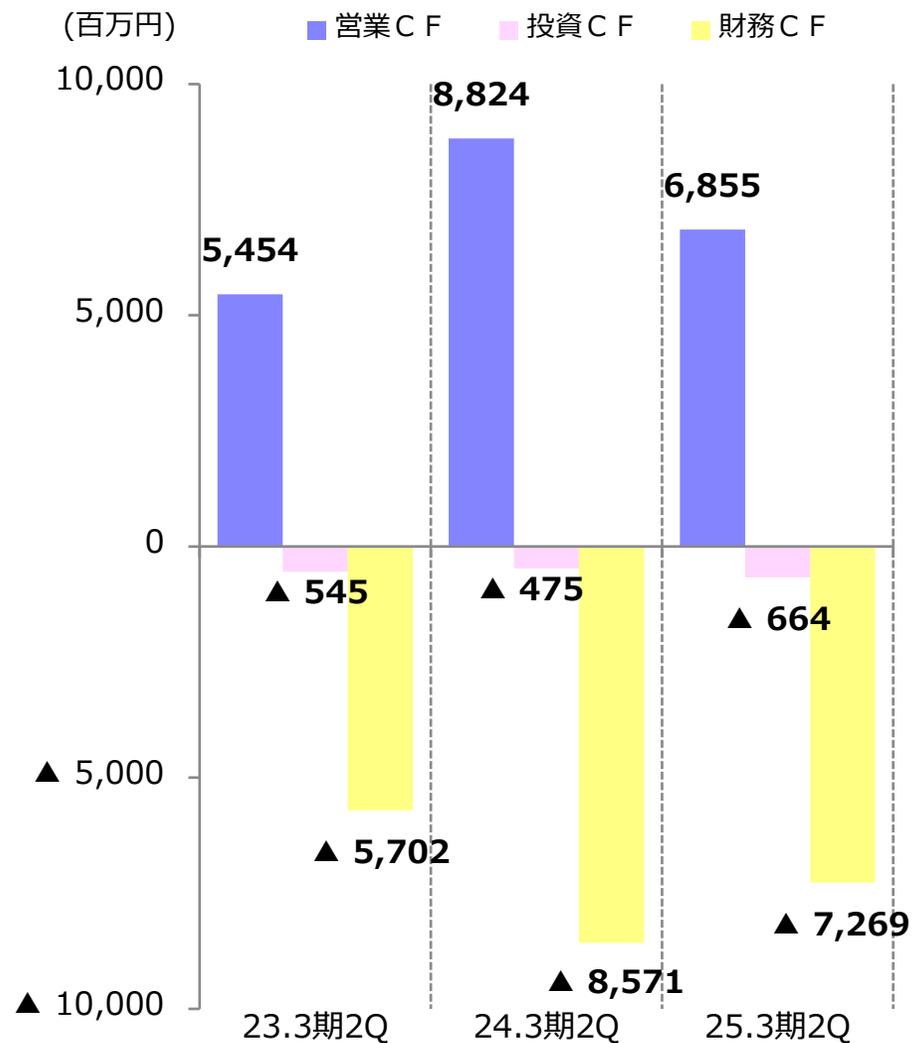


決算概要－貸借対照表

	24.3期2Q	25.3期2Q	対24.3期2Q増減 (単位：百万円)	
流動資産	35,013	39,254	4,241	
現金及び預金	7,238	8,325	1,086	
売上債権	14,612	16,587	1,975	
たな卸資産	9,798	10,781	874	単体+762
固定資産	20,200	20,625	425	
有形固定資産	10,408	10,426	17	
無形固定資産	3,572	3,142	▲ 429	
投資有価証券	5,221	5,406	185	単体 +202
資産合計	55,213	59,879	4,666	
流動負債	26,437	28,667	2,230	
買入債務	9,794	9,955	161	
固定負債	3,459	3,958	499	
有利子負債	8,043	8,863	821	単体 +532
負債合計	29,896	32,626	2,729	
純資産	25,316	27,253	1,936	
資本金	3,698	3,698	0	
負債純資産合計	55,213	59,879	4,666	

決算概要 - キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



	24.3期 2Q		25.3期 2Q
営業キャッシュフロー	8,824	→	6,855
税金等調整前当期純利益	1,778	→	1,565
減価償却費	744	→	890
売上債権増減額(▲は増加)	2,068	→	1,681
棚卸資産増減額(▲は増加)	2,663	→	2,951
仕入債務増減額(▲は減少)	451	→	▲1,226
未払金増減額(▲は減少)	825	→	1,320
投資キャッシュフロー	▲475	→	▲664
有形固定資産の取得	▲407	→	▲599
財務キャッシュフロー	▲8,571	→	▲7,269
短期借入金の純増減額	▲8,084	→	▲6,424

Ⅱ. 通期予想と今後の展開 (2025年3月期)

25.3期上期総括

日本

- ◆ 殺虫剤の国内向け売上は伸長したが、処理水問題の影響を受け越境ECが減収
- ◆ 値上げによる価格改定効果はあったが、円安影響から原価高止まりが依然続く

東南
アジア

- ◆ 各国で現地通貨ベース、円貨ベースともに増収
- ◆ 競合他社との競争は激化しているが、トップシェアを堅持し売上を伸ばす

欧州

- ◆ フマキラーヨーロッパ、ザピともに、現地通貨ベース、円貨ベースで増収
- ◆ 春先の気温上昇が早く売上が伸長

国別売上高 前年同期増減 (日本24年4月-9月、海外24年1月-6月)

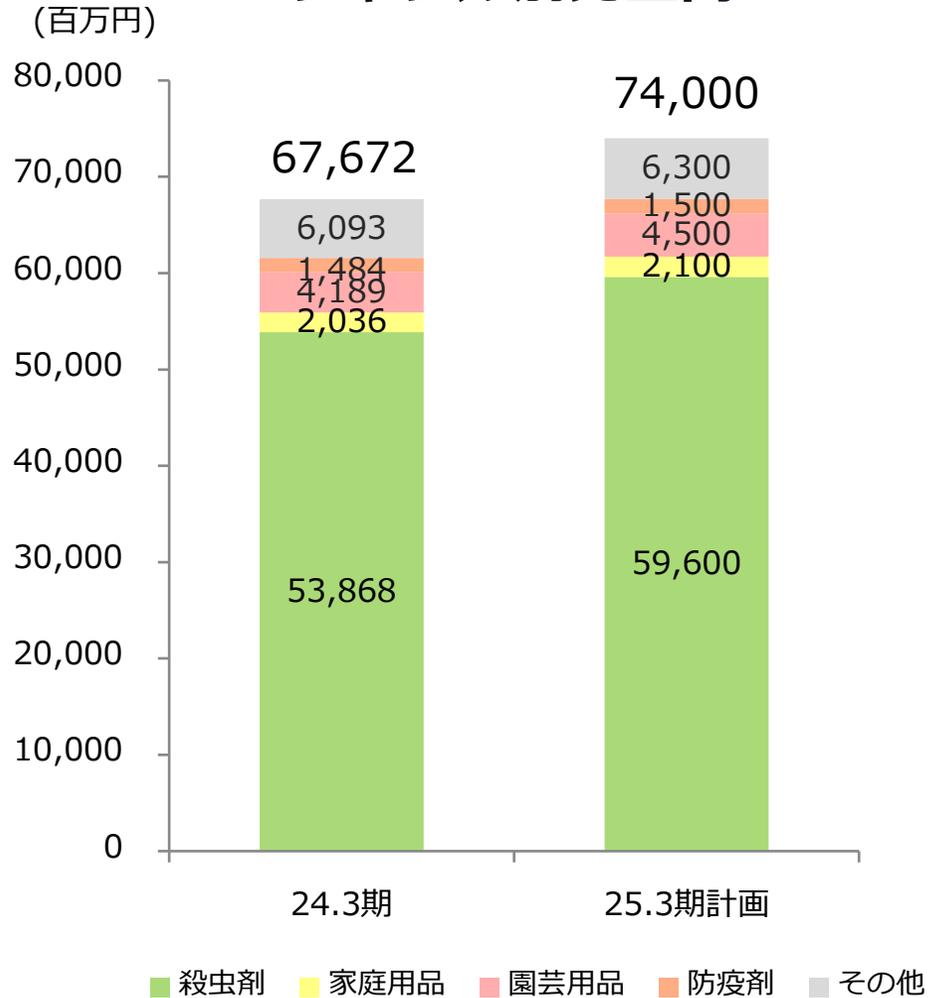
	日本	インドネシア	ベトナム	マレーシア	タイ	ミャンマー	イタリア
現地通貨	—	↗	↗	↗	↗	↗	↗
円貨	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗

- ◆ 海外子会社の業績は引き続き好調に推移することを見込む
- ◆ 国内は記録的猛暑、長引く残暑などによる販売機会の延長と返品の減少が想定されることから、上期時点では業績の不確定要因が多いため通期業績予想は期初計画を据え置く

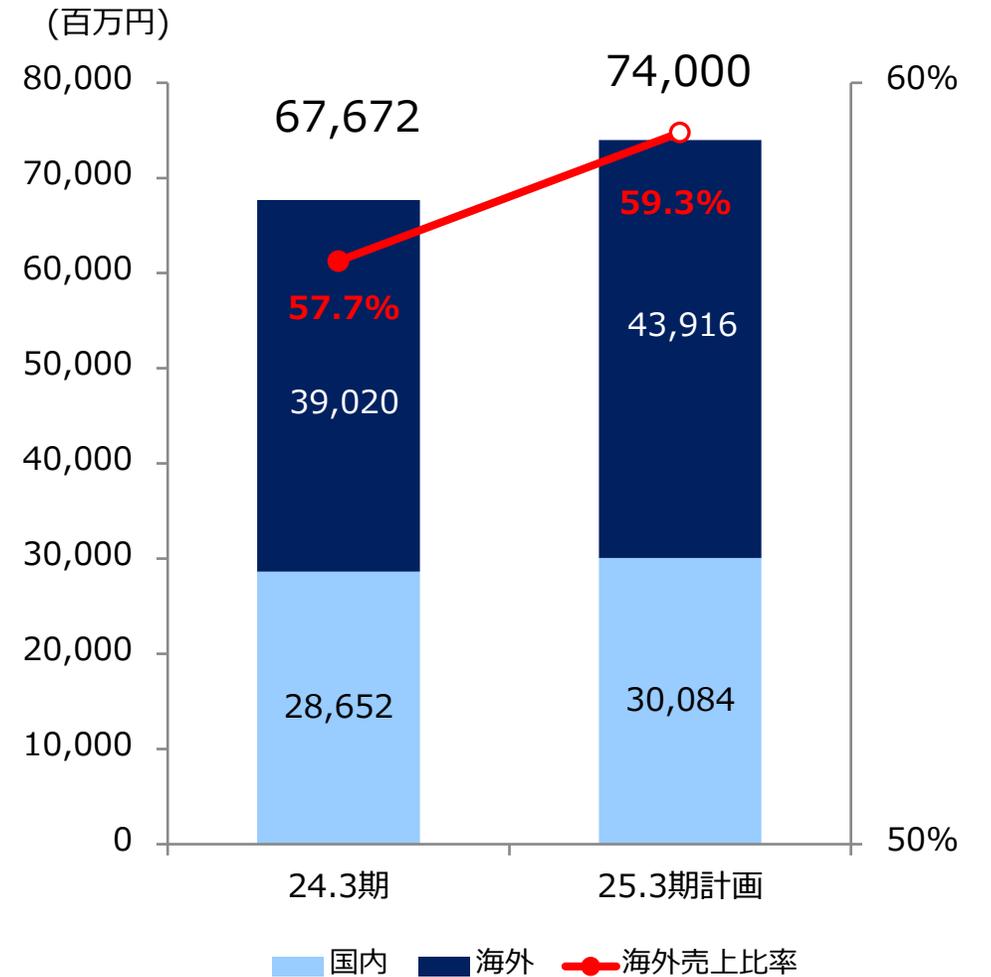
	24.3期実績 (百万円)	25.3期計画 (百万円)	対前期増減額 (百万円)	前期比 (%)
売上高	67,672	74,000	+6,328	109.3
売上総利益 (粗利率)	20,011 (29.6%)	22,600 (30.5%)	+2,588 (+0.9pt)	112.9
販管費	17,607	19,800	+2,192	112.5
営業利益	2,403	2,800	+396	116.5
経常利益	2,798	2,900	+101	103.6
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,377	1,560	+182	113.2

今期予想 - ジャンル別売上

ジャンル別売上高



国内/海外売上高



①原材料価格

- ◆ 国内 引き続き原価の状況を踏まえ、値上げの実施を検討(2025年年初より)
- ◆ 海外 国によって状況が異なるが、原材料価格の状況に応じて値上げを実施

②国内事業の強化

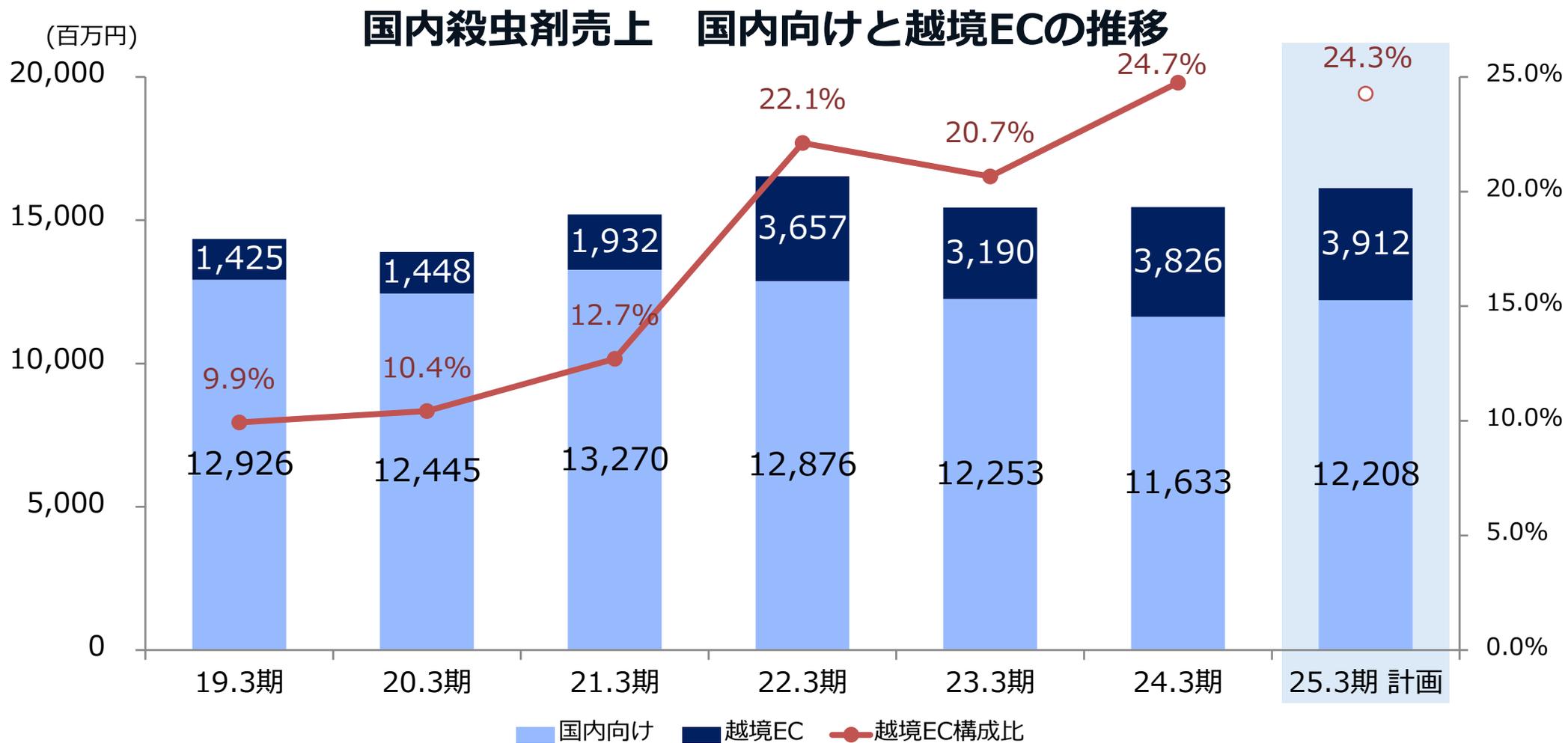
- ◆ 販売期間の長期化に対応し販売強化
- ◆ インバウンド需要の拡大を見据えた営業展開
- ◆ 伸長している園芸用品の販売強化(ハンドスプレーなどの新商品上市)

③海外事業を軸とした成長戦略

- ◆ 東南アジア各国での殺虫剤の更なるシェアアップ
- ◆ 欧州における販路拡大、フマキラーヨーロッパとザピとの連携強化

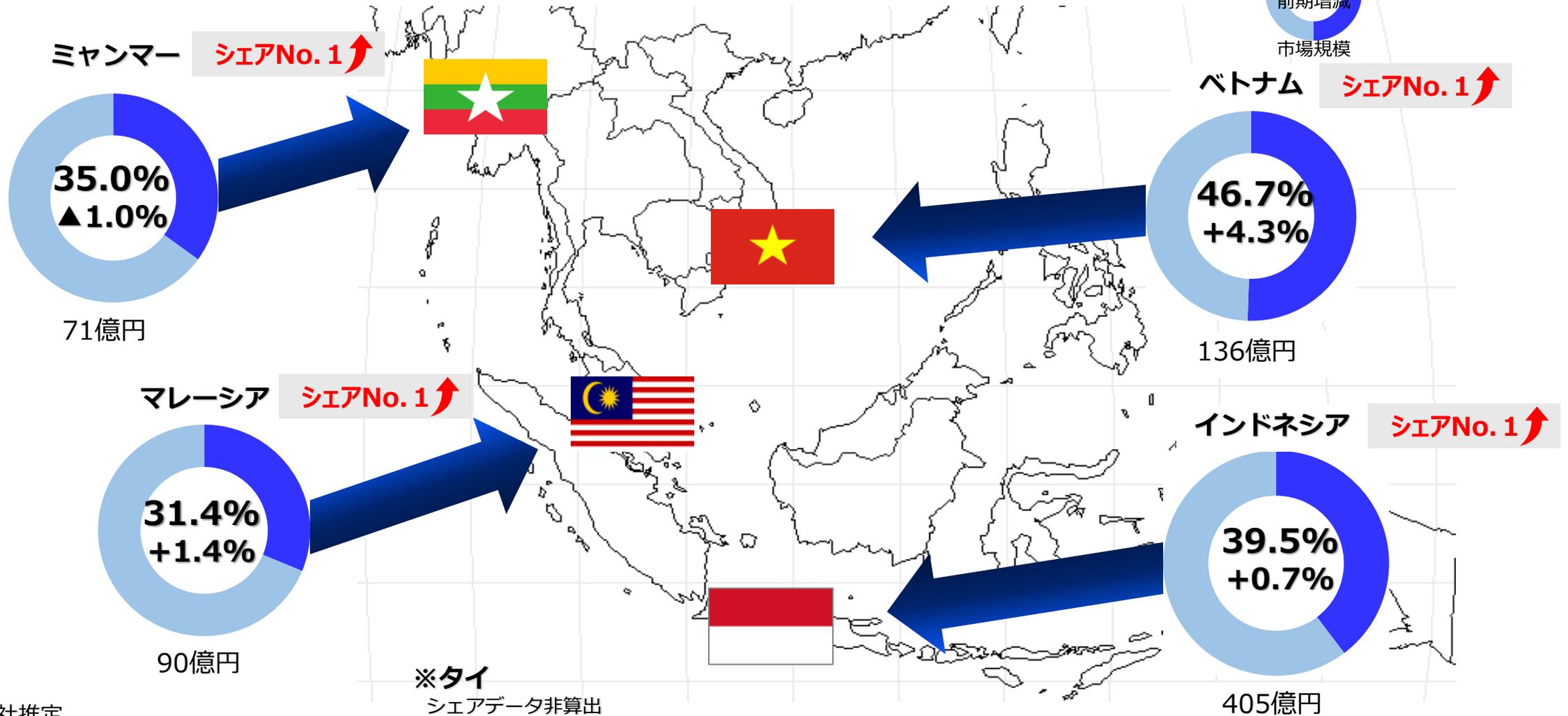
日本セグメント – 越境EC 売上推移

- ◆ 25年3月期も前期並みの越境EC売上を見込むも、上期は処理水問題の影響から売上縮小
- ◆ 国内向け売상을伸ばしカバーすることで通期の計画は据え置く



海外事業-ASEANにおけるシェア

フマキラーグループの殺虫剤シェア(2023年12月末時点)

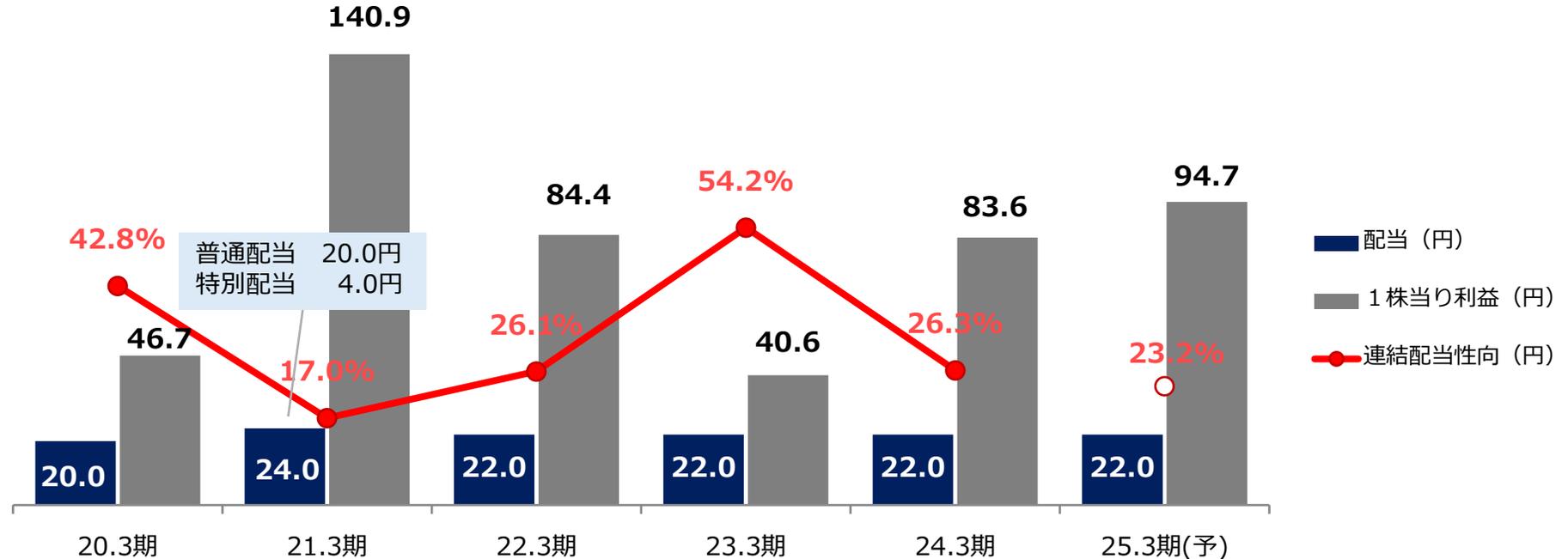


出所：当社推定
市場規模：末端価格ベース

配当に関する基本方針

株主様に対する利益還元として、業績・将来の事業展開や内部留保などを総合的に勘案し、安定的かつ継続的な配当を行っていくことを経営の重要課題として位置づけています

配当及び連結配当性向の推移



日用品質

フマキラー

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

《本資料に関するご照会先》

フマキラー株式会社

取締役 管理本部長 郷原 和哉

TEL : 0829-55-2111

FAX : 0829-55-0712

E-mail : fmk-ir@fumakilla.co.jp

Ⅲ. 補足資料

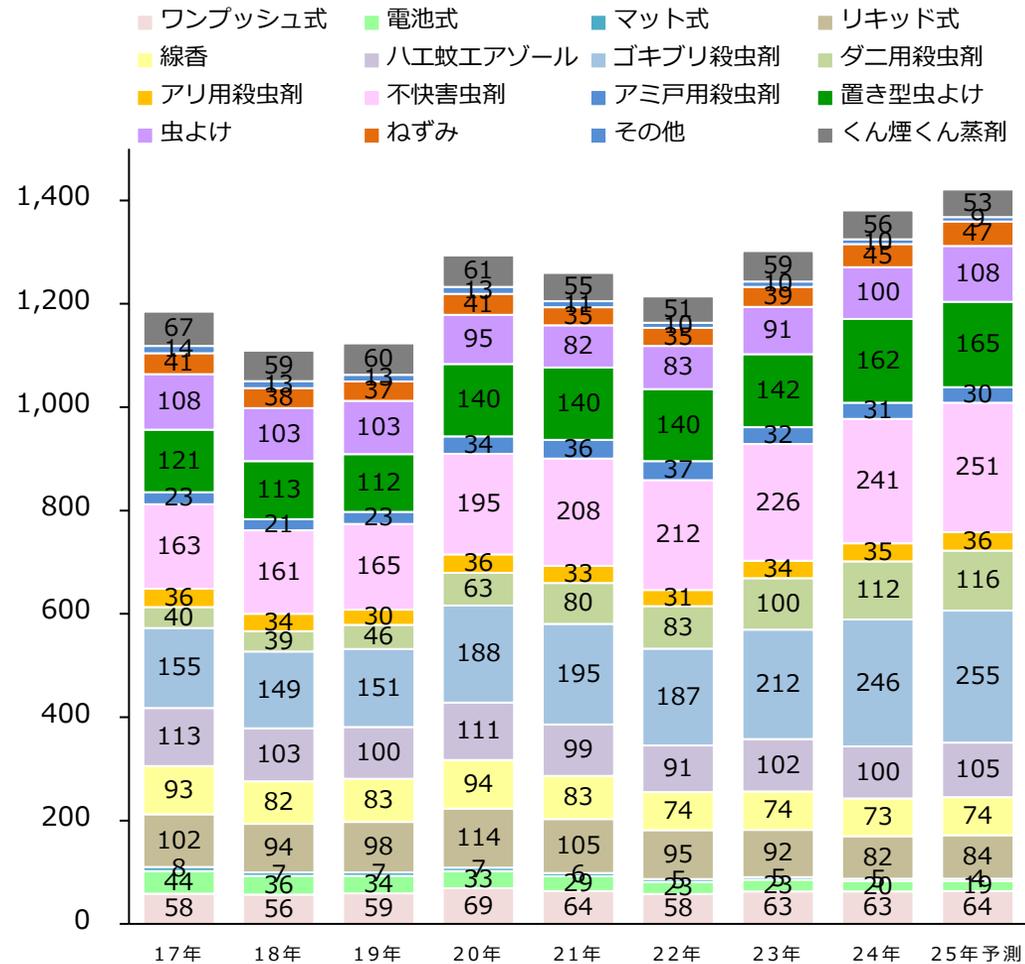
ジャンル別 売上高増減要因

25年3月期第2四半期ジャンル別 売上高前期増減要因

ジャンル		前期比	要因
殺虫剤	国内	91.8%	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 国内向けは市場の拡大もあり伸長 ◆ 越境ECは売上減少
	海外	118.4%	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各国において現地通貨ベースで伸長 ◆ 欧州も堅調に推移 ◆ 為替の影響(円安)を受けたことから円貨が増加
家庭用品		94.6%	◆ 主力のアルコール除菌剤は微増も除湿剤が減少
園芸用品		107.1%	◆ カメムシ関連商材など不快害虫用商品が好調
防疫剤 その他		103.7%	<ul style="list-style-type: none"> ◆ フマキラー・トータルシステム(株)のシロアリ施工工事が引き続き好調 ◆ 防疫剤は減少
合計		109.3%	

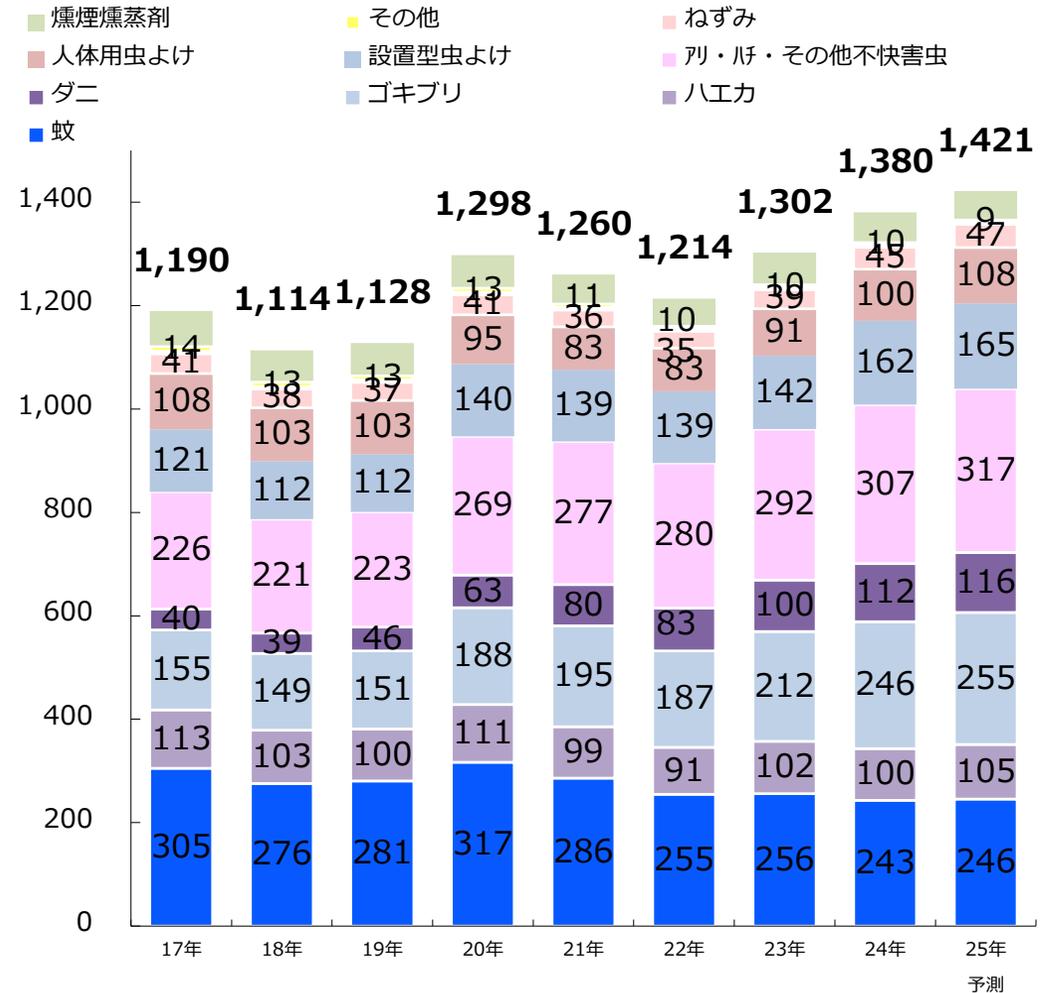
家庭用殺虫剤市場規模 - 国内市場

国内・家庭用殺虫剤市場規模
年間約1,420億円（小売ベース）



※データ出典インテージ社SRI+(1月~12月末端価格)

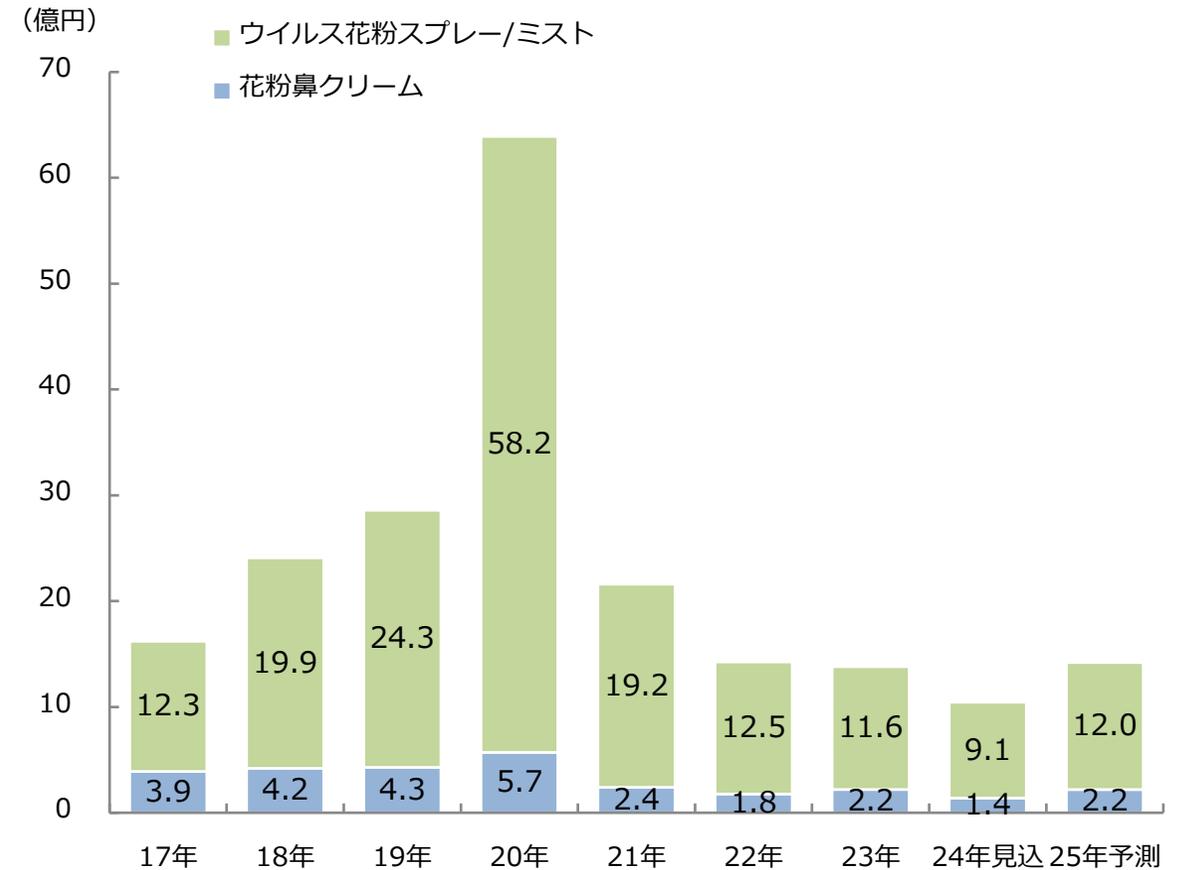
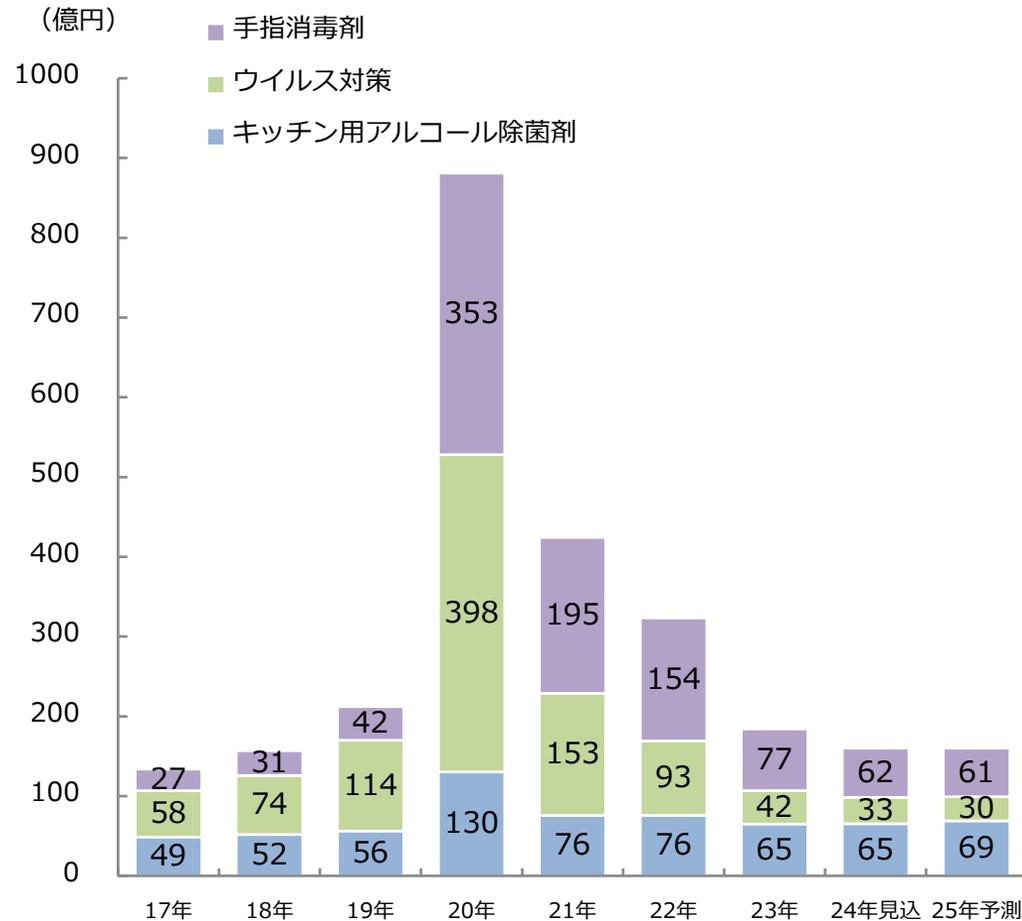
害虫別殺虫剤市場規模



家庭用品市場規模—除菌剤・花粉

除菌剤市場（当社関連商品）

アレルシャット関連市場



園芸用品市場規模

園芸用品市場

